題目　中国における称賛行動の地域差―米麦理論からの検討―

氏名　菅原有紗

指導教員　結城雅樹教授

本研究の目的は、称賛行動に影響を与える要因を明らかにすることである。称賛行動とは、「他者の望ましい行為や特性に対するポジティブフィードバック」(Delin & Baumeister, 1994)である。称賛を受けることで、必ずしもポジティブな感情になるとは限らない。称賛行動の効果を左右する要因として他者の存在の有無が示されている（青木,2009）この他者の存在の有無と称賛行動に関して、張・山本・結城（2017）は、対人関係や集団の選択肢の自由度を表す関係流動性 (Yuki & Schug,2012) に着目し社会生態学的アプローチから検討した。対人関係や集団を選択する自由度が高い、高関係流動性社会では、周囲に第三者がいる状況での称賛は、被称賛者の良い評判の流布に繋がり、自分に似た他者を惹きつけるという点で適応的である。一方、対人関係や集団を選択する自由度が低い低関係流動性社会では、周囲に第三者がいる状況での称賛は、メンバー間の地位に格差を生じさせ、集団内で不和を引き起こすため迷惑がられる可能性があり、非適応である。張・山本・結城 (2017) では、公的状況で、関係流動性の高いアメリカより関係流動性の低い日本の方が称賛された側は嬉しいと感じず、人をより褒めないことを明らかにした。本研究では、関係流動性を規定する生業形態に着目し、生業形態の違いから称賛行動の文化差を明らかにするために中国を対象に調査を行った。中国を対象とした理由は、米麦理論（Rice theory）によって中国の米地域は低関係流動性社会であり、麦地域は高関係流動性社会であることが明らかになっているためである（Talhelm,2015）。公的状況において麦地域より米地域のほうが、称賛された側は嬉しいと感じず、より人を褒めないと予測した。その結果、先行研究で見られた米麦地域の関係流動性の差は見られず、称賛行動において地域における差も見られなかった。中国人は公的状況より私的状況で人を褒めるが、嬉しいのは私的状況より公的状況だということが明らかになった。これは日本やアメリカとは違い、中国独自の結果であった。本研究は、米地域と麦地域の関係流動性が、先行研究と異なったことが一番の問題であった。しかし、中国の文化の特徴を明らかに出来たことから、社会心理学研究において、日本と中国は東アジアと括られることが多いが、それぞれの国について分析することも意義があると示すことができた。ただ、中国国内の称賛行動の文化差については今後の課題である。